

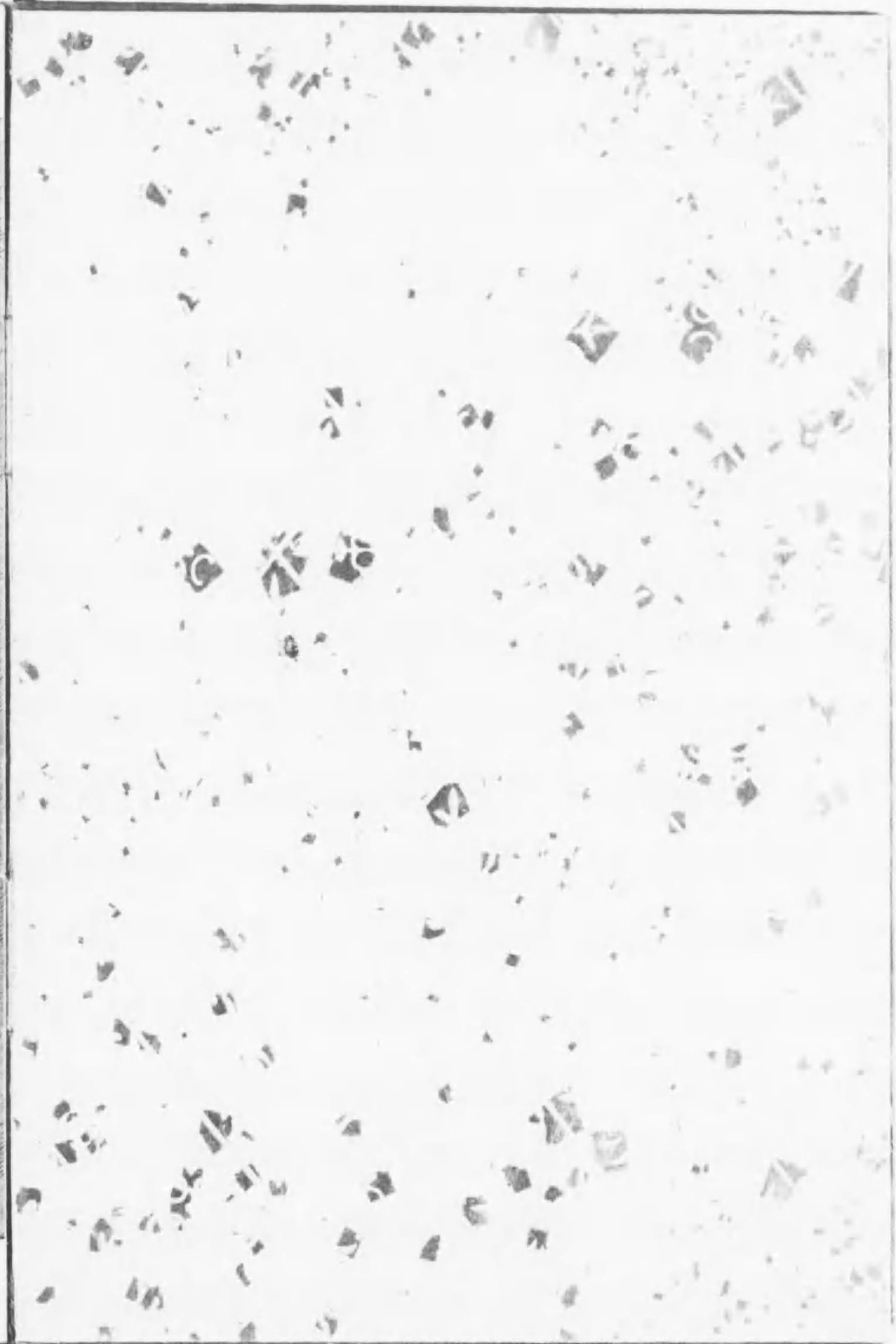
9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始



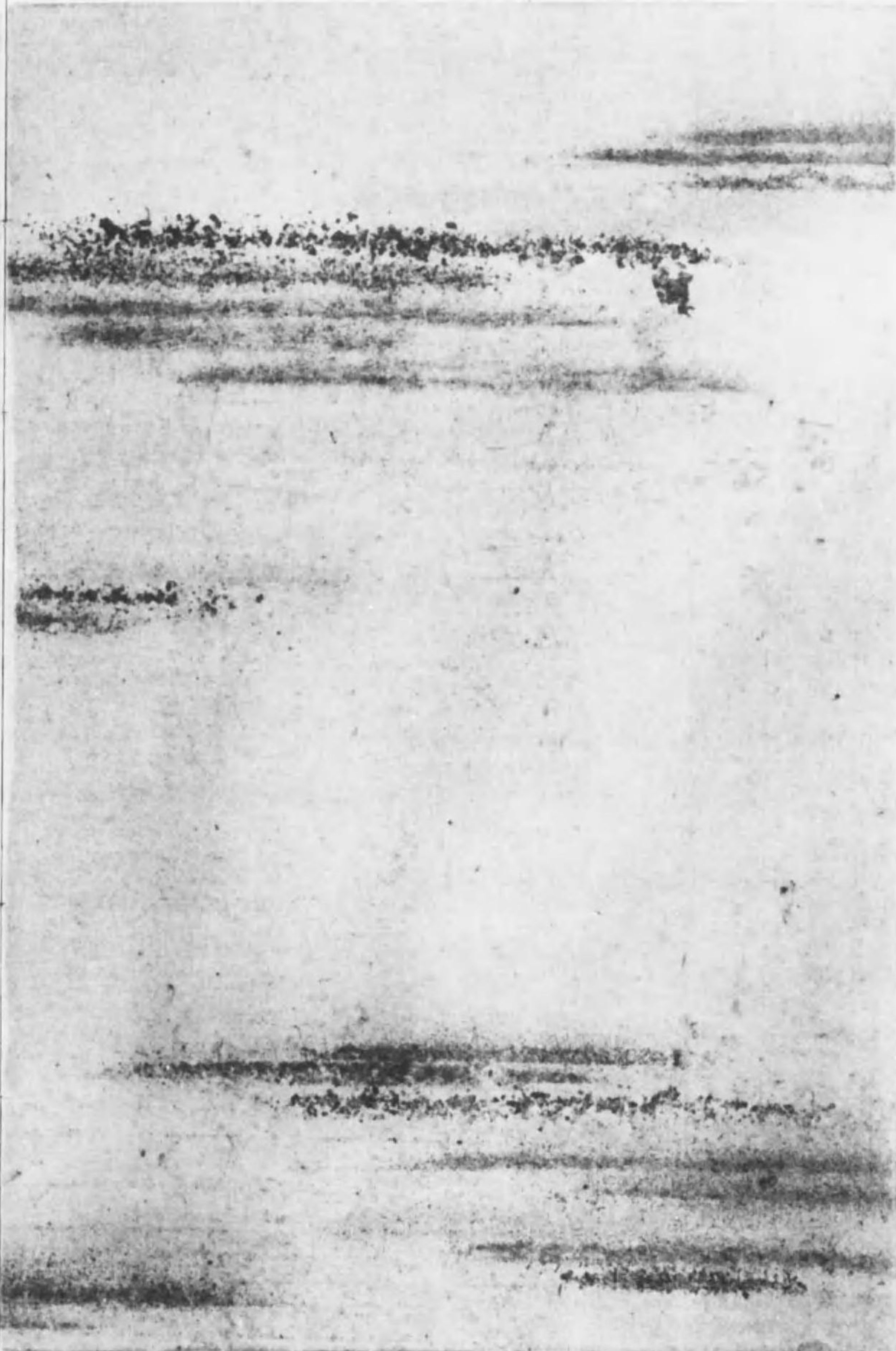


古今和歌集 下





1





古今和歌集西第十一

五十一

題不知

讀人少ら

あはれきさしき物五月の秋

さきも物さしきさきさき

あはれき

あはれき

あはれきさしき物五月の秋

あはれきさしき物五月の秋

あはれき

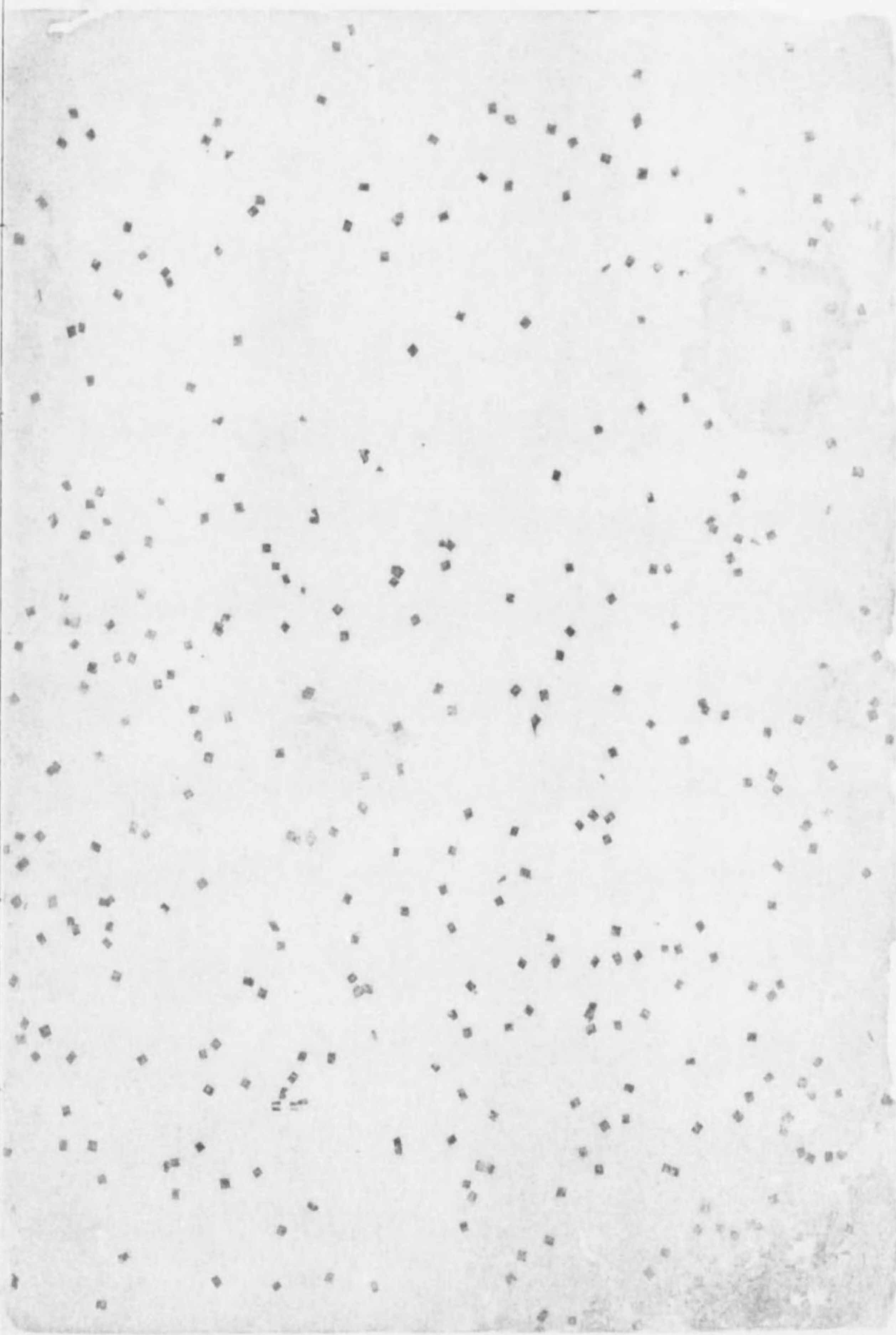
あはれき

あはれきさしき物五月の秋

あはれき



307
107









葉子綱

うましあはれ花しきわ人の恋  
 者綾無 谷日わさるはくま  
 懐人  
 知り知れわあはるあはれわを  
 思思思思思思思思思思思思  
 十寸の糸の使はまりは  
 川ニ物見しはたはるる女は

家をうらやしくはせわわ

香しき

かねの書よははれは  
 草れをてはむら  
 人れ毛をけはるるは  
 下ははるるは人れは  
 ちたよをくあはる

かき

かき





山根露のまゝに  
あついでこきり

是をうら  
スナ

あつうわしあはぬ  
心なし人にけり

スナ

けふうらのまゝに  
あついでこきり

あつうわしあはぬ  
心なし人にけり

スナ

あつうわしあはぬ  
心なし人にけり

あつうわしあはぬ  
心なし人にけり

あつうわしあはぬ  
心なし人にけり















いさねうしつるは、あはれに  
 や、しんごうをば、やねあ  
 伊豆のうしつるは、あはれに  
 とくしとあはれにわし  
 ち、ちたうは、うしつるは、あはれに  
 まのたうは、あはれにわし  
 うゆし、あはれにわし  
 あはれにわし、あはれにわし

初葉、まはるるは、あはれに  
 天忠のあはれにわし  
 初も、あはれにわし  
 乃、あはれにわし  
 うしつるは、あはれにわし  
 か、あはれにわし  
 よ、あはれにわし







しかるにわが夢よなほなほ  
 恋しき人の心をわづらひのなほは  
 ちかほはやくもわづらひのなほは  
 人の心もわづらひのなほは  
 恋しき人の心をわづらひのなほは  
 ちかほはやくもわづらひのなほは  
 人の心もわづらひのなほは

ちかほはやくもわづらひのなほは  
 人の心もわづらひのなほは  
 恋しき人の心をわづらひのなほは  
 ちかほはやくもわづらひのなほは  
 人の心もわづらひのなほは  
 恋しき人の心をわづらひのなほは  
 ちかほはやくもわづらひのなほは  
 人の心もわづらひのなほは















夏生れ身まはらうらになれよと  
とほけらふよよけくたわらわ

此にお針をうひたわらうらな  
乃高きく井よそはわら

つゆとくしふやうらなわら  
なれ林れゆあくまのつあわ

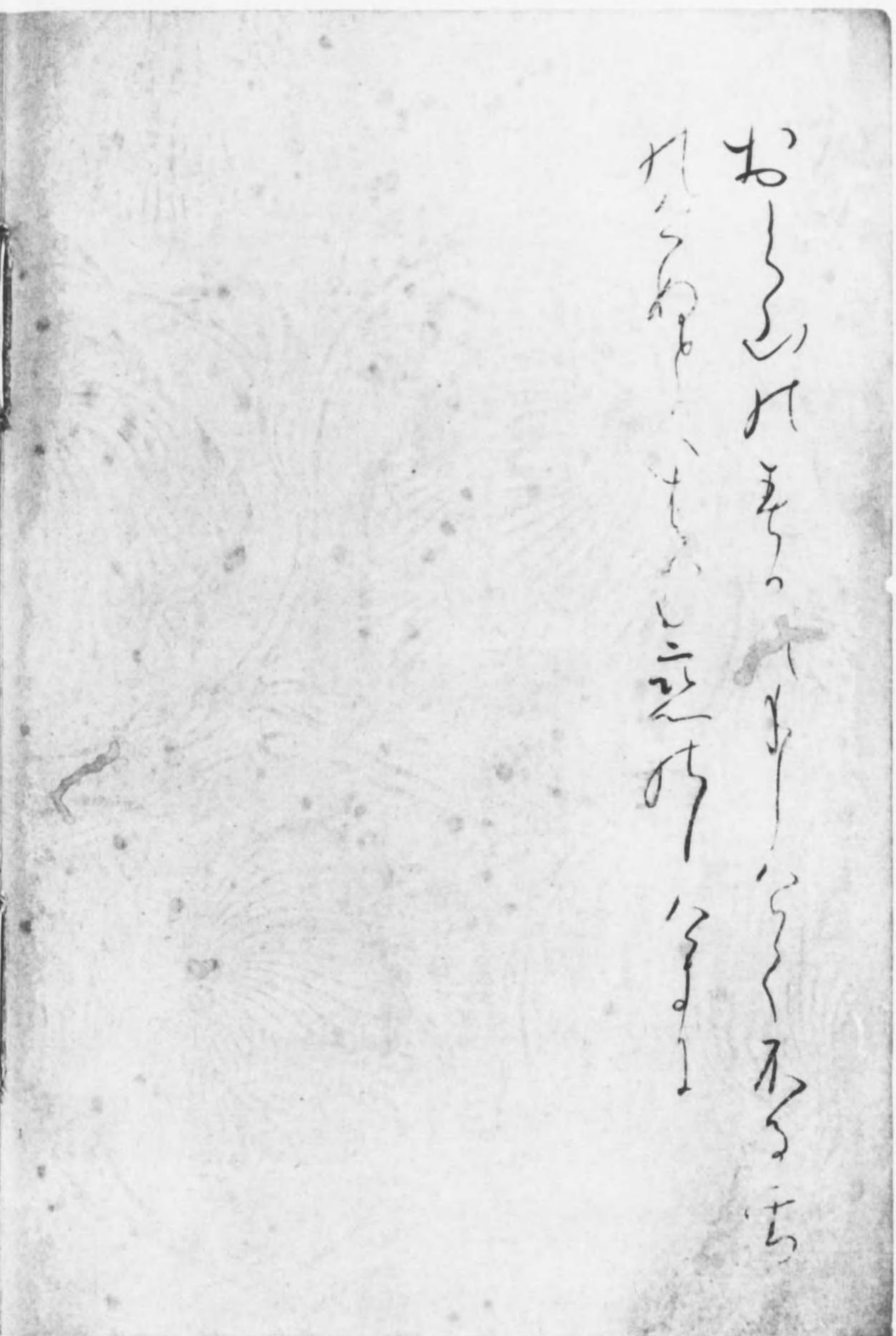
いまの四れをこそ人をいせたらんが  
本心ふ初れわなや

林れよのはのくくはなまのい  
よののしわはわあ

へやう初れは後なわはな  
とらげくくをさせん

あわちあうらわらうらな  
初れはなうらうら





此  
 の  
 木  
 は  
 日本  
 の  
 名  
 木  
 也  
 其  
 の  
 葉  
 は  
 長  
 針  
 状  
 葉  
 也  
 其  
 の  
 幹  
 は  
 樹  
 皮  
 厚  
 而  
 有  
 鱗  
 片  
 也  
 其  
 の  
 實  
 は  
 球  
 形  
 也  
 其  
 の  
 葉  
 は  
 長  
 針  
 状  
 葉  
 也  
 其  
 の  
 幹  
 は  
 樹  
 皮  
 厚  
 而  
 有  
 鱗  
 片  
 也  
 其  
 の  
 實  
 は  
 球  
 形  
 也



古今和言集 西物 二

巻二

見し不

少所小町

折れしつゝぬれ若や人のみさるしんきと  
とらむをいあむせし色ま  
うた、もし恋しき人を見たりよわ  
言々云亦も奥そやうし

糸とやあしき時うははれお  
れのもんしをわすれしきさう

ま付け

秋月の子をいぬるれおし人  
もや奥らるるあ

てし、し、人のわさ  
け、や、法師を道師  
てし、し、いひき



三つよよと... 小野...  
まもつたに... 了... へ...  
へ... へ...

安信法師

何れも... しょう... だ... ね... 玉...  
人... み... ね... の... ち... ち... ち...

へ  
小野

お... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち...  
れ... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち...

寛平御時信守三合符

藤原朝野

い... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち...  
ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち...

信... の... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち...  
ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち...

お... 藤

わ... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち...



宗とよせういねえ人しぢ

友別

ひのよしひぢくそゆらぢらひ  
まもんよせういねえ人しぢ  
ゆらぢらひあぢらひあぢらひ  
いよはまぢらひあぢらひ  
はのぢらひあぢらひあぢらひ  
我らひあぢらひあぢらひ



わらひあぢらひあぢらひ  
まもんよせういねえ人しぢ  
はのぢらひあぢらひあぢらひ  
我らひあぢらひあぢらひ

本名

いぢらひあぢらひあぢらひ  
まもんよせういねえ人しぢ  
はのぢらひあぢらひあぢらひ  
我らひあぢらひあぢらひ



藤原世系

ト………  
礼を………

志………  
………

わ………  
………

わ………  
………  
………

………  
………  
………

………











大江よ

はをなまをちりしるる春高

よぬまうしそとくたて

船の理

我の舟をりしるる鏡如く

時をさしなく春のたけ

無

いつよ山にほをさすをほ

教たしそちちるる意す

和

竹のちりしるる時たけ

ちかたそしちかた

や

さのよとゆきしるるは



かゝるのこころをさしおこす人

惟貞親と云ふ方の合上

後人

あまのしほはふさふさたる

よわれおほくもたふちのちり

きり

きり

あまのしほはふさふさたる  
よわれおほくもたふちのちり

新垣

あまのしほはふさふさたる  
よわれおほくもたふちのちり

あまのしほ

あまのしほはふさふさたる  
よわれおほくもたふちのちり



いぬのこころは、わづらひた

あき

枯れよ 智恵なきは 吾れ 泣き ぬるる  
人の子は 泣き ぬるる

あき

まじし かつぶと のせ、わづら 雨ふれを  
つとむら せに ませう 我れ

いかに 侍か ならん かつぶと 何なる

あき

いかに 侍か ならん かつぶと 何なる  
人の子は 泣き ぬるる

二月 侍の 侍に ならん

あき 侍の 侍に ならん

あき

いかに 侍か ならん かつぶと 何なる



わささしおのりなをい

題不知

坂と芝刈

わささしをくさふ凡山の梅記まじ  
九ちりもしふはまてくら

宗岳大軌

夕さのたうつはこわさるわすたれわさ  
ふさたれとさわさる

中巻

たまつぎはてしなくわささるる  
ささるるさも我をささるる

友刈

よひこよわさるわささるる  
ささるるささるる  
ささるるの依やれ中山中  
しつ人をささるる



数物れ統のたよ海をあらと  
 人をみろむおしすそあらう  
 へをうくさきぬねはあらう  
 冬れうしはたをこやう  
 母し

ころ恋はたね山つるあはれ  
 希心やわがうらさう

けうけたまをのこころ色く

せうまのまゝかきもく  
 うられなわうらなうら

新垣

ちやうをゆきうらな  
 ちやうをゆきうらな

春



凡そは冬もわらわ 白雲の  
くアレルも 暮ら じ。

月をわらわ かげるまは  
らも かりはぬ人しあはせは

春

源孝文

こゆなはつるもなこし 春は

常とそ物と云をなす物

母

け乃同のなすけの善い火ししう

は物さわらわ人しあはせは

手しおれく月しんくくくくくく

きしんくく物しんくくくくくく

人しぬぬきしんくくくくくく







わらわはまゆいさしきりて  
かきくまをまては

わしのまきりしきりて

てはまきりて

あつる

あつるまきりて

あつるまきりて

あつる

あつるまきりて

あつるまきりて

あつる

あつるまきりて

あつるまきりて



古今和歌集巻第十

志三

やよひのつらさうらさし  
に人よのこころの  
ちよきほわかれまよ  
もしてふりて

兼平朝下

たしむしむれけし  
かかへ春ぬれぬ  
は

兼平朝下 家なるのこころのし

とよよとくつは

藤原朝下

はれ...のなるゆめ



えさくの子はくちか  
し

えんきん  
か

業平

重なるしそそけしつめな  
まのさき(か)るまのまのまの

よる(か)るまのまのまのまの  
まのまのまのまのまのまの  
まのまのまのまのまのまの  
まのまのまのまのまのまの

人丸

あはねよのまのまのまのまの  
我ま(ま)まのまのまのまのまの







業平朝下

あまのつらけくわらーとあまのつら  
てしあけくわらーとあまのつら

小野少町

あまのつらけくわらーとあまのつら  
てしあけくわらーとあまのつら  
あまのつらけくわらーとあまのつら  
あまのつらけくわらーとあまのつら

船の細

あまのつらけくわらーとあまのつら  
てしあけくわらーとあまのつら  
あまのつらけくわらーとあまのつら  
あまのつらけくわらーとあまのつら

カミヤ

あまのつらけくわらーとあまのつら  
てしあけくわらーとあまのつら  
あまのつらけくわらーとあまのつら  
あまのつらけくわらーとあまのつら

左原少町



阿部一とのなまへてうりちるた  
みしよのまらまらとのんやたら  
まへれー

不知

不知

かしてわははとせよたつた  
れやあふとたつたまたよーん

忠告

みよのまらあや云たらあや  
たつたあやとつたあや

みよのあや

あやとつたあやとつたあや

あやとつたあやとつたあや

あや

あやとつたあやとつたあや







あつた

素年

いざし礼ぬ我がよしの北のサニ  
りハ東ぶいともうらもしとたさ

賢ら

志のふれとこひにまふはあは  
えこれやまよふ月れいそとれ

題

情人ふも

忘るえふれくハ夜やあふ所の  
中さけよかたはれまあつた

小野お町

秋のよハちのこけりあはれし  
こも方かたはれあつた

秋夜



いづれもしむしむいづはてわしうと  
まゝあふんうらの秋のよはれはて

藤原國経卿

あそわをいふあはのこころうらな  
いひらねあふんそりし

始末記

續今昔記

これい史のりつらゝゝゝとほろゆか

たのたまわしかりりり出に

寛平御時中官のあふん

始末記

あけなをいひつらみらうは  
しほめしなひうしあをえらう

始末記

終

いづれもわしれきゝあうの



とありもはきこし我うがまゝわろ

凱ふら

後今へん

ほととよれ中洲歌うつぐ歌胡露

能事と和作(曉の歌)

たよとく今あはしよみわたるをわ

みよあはしよと人よきんうと

大江千里

けししおとんぐんさきしとるは

都れひえ天よきそくひ

あまたあひやあしたよ

いはし

業千柳

あつたれゆちをばなな

あはちかろくさしんらあそ



葉平胡たのせれくくかみのつ。  
 じよまうけつとにぬ宮ら  
 かのう人よいををりにあひ  
 ーまたのわーたよひとたろ  
 けーがーて折れをるー女の  
 ままよわいよまうよまひと  
 らに

子みわー我わゆーん其の目  
 ちのあゆかーかゆか  
 也と歎

う

葉平

うーくーくーれやうー  
 せあうーはよん

おん

續く



昔は玉の如く  
 光りつゝを所やれ  
 るゆめはに  
 けりあはれく  
 幸ふはなれし  
 老翁もわが名も  
 國のみならず

帝の上江の兼女と給ふ

いわふも東の  
 こせとた一と我名

このうも或る二方兼女の  
 兼女と給ふ

兼女と給ふ

兼女と給ふのたまたま



ひのけうくわくまあわは

讀人ふら

たふらけぬのしとれまあけ  
たけはるうさむらうよひそまを

去野河水ぬきもやうなまを

あまういぢきう一まに思

たけはてまたにま共之世を休え

れりゆきれきういんういんやあ

七おのこあうらうまんたうら

まうらう

少新春風

花はくま穂とそく恋はあま

情三志るゆふひまのそはゆか

桐清行うしのひまあひま



あつげう女れおとせたる

侍今より

おれとらもあつげうの意

志れもあつげうの意

き茶

う

桐信村

手みあつげうの意にうてれき  
られもあつげうの意にうてれき

う

小町

う

人あつげうの意にうてれき

う



ふらふらにゆく人よなほ  
世も世もたかひしけれまほ  
よもよもなほゆくはれぬ  
折も折も人めつゝみれも  
とみれもなほわらふね  
とほとほをなほゆくはれぬ

あらあつとこれや

寛永の御病室の言

本友別

九折た井のなほは  
ゆのーたうよひなほは

たうよひ

本友別



冬の池のしじみ 寄るものこれぞ  
もろもろは 今もいかに

七の糸糸は ねはアアの糸をは  
むんせふは てるしん いてるね

姉のちん

五のちのちのしじみ ねたあは  
みちのうらうらよるをこり 結や

平定文

ちのちののー ねたあは  
もろもろは 今もいかに

友則

ちのちののん ねたあは  
成のちのち てるしん いてるね







このころ、お人のいもく孫丸  
いっけ

くもろしんちやうしんちやうしんちやうしんちやう  
依りかゝるれとすむあはれはれ

あつははまをけわちのまは  
よのかはのなまつを

ひらめのだらうわいささう  
ひらめしんちやう

千ふくよるわんち  
いっけ

いせ

きんちやうはまらたさ  
ひらめしんちやう



古今後身集西東本堂

急

引

讀

みよのふれだちのねまはまのし  
みかつる人のまじりわたり

あきらめをいれ  
あきらめをいれ

黄

そのれいふのちりさ  
ふれまはあやま

藤原忠行







永乳者下ぬ若ちを付し良夫  
なつらぬのわつとし人をかた  
越つゝな

讀みしは

阿能子、も市地をせよならよ打  
ととやおとしやめてむ人たむすれ  
し

定年山田原宮寺

たも希とふも乃蒸れきや村  
て亭いぬ母寄せらねも姑ふは  
河原後

虹しるは

修んてしは

さしきしるは、えんもかきし夜  
しやれれししよあ地入り



才人かこもられた行くべきお  
ひよめかれいも科のまはらるる

まは

今来と云し評し九月の左明の  
月を新出禱録

徳ららば

月より板より人ニ若や  
一帯ニいたる新しき  
手ろもいもねや  
さし我幸結ニ霜ニた  
宮城のしるほの小萩露を  
み川を新しきを待  
之れよりしるる







かゝるにむかへはまれしむら  
 さいくはくはくはくはくはくはく  
 ちまれしむらむらむらむらむら  
 りむらむらむらむらむらむら  
 りは

りむらむらむらむらむらむらむら  
 りむらむらむらむらむらむらむら

このころはむらむらむらむらむら

このころはむらむらむらむらむら

ちまれしむらむらむらむらむら

さいくはくはくはくはくはくはく

このころはむらむらむらむらむら

ちまれしむらむらむらむらむら

さいくはくはくはくはくはくはく



不らけりの好り印。昔年の  
 羽下おちりくもせしな  
 りし。てしうくつを  
 けりし。いまうく  
 ありのうもなせりわ  
 いし。くもくもく。

乃をせし。は

昔年印

なる。よれはれと  
 みつをさる。少  
 けし。のうらひとこ  
 め。あ。す。あ。い。て  
 下。心。き。か。ら。ま。ひ。



おほねさ、ぬらうくちあつるまじわ  
ぬれをけしつるまじあまのまじわ

わ

ちあひあの羽

おほねともちしつるまじあつるまじわ  
まじあつるまじあつるまじあつるまじわ

お

よるひしるま

すかぬらうにちあつるまじあつるまじわ

伊ふみおけはぬらうまじあつるまじあつるまじわ

あまのぬらうにちあつるまじあつるまじわ

あまのぬらうにちあつるまじあつるまじわ

あまのぬらうにちあつるまじあつるまじわ

あまのぬらうにちあつるまじあつるまじわ



心ちもなほまゝのこころのこころのこころ  
 ありまゝのこころのこころのこころ  
 つけのこころのこころのこころ  
 かまゝのこころのこころのこころ  
 杜ゆゑのこころのこころのこころ  
 人のこころのこころのこころ  
 定平御時后宮子金言

友則

甘みのこころのこころのこころ  
 まゝのこころのこころのこころ  
 心一良寸 読んては  
 まゝのこころのこころのこころ  
 心一良寸 読んては  
 心一良寸 読んては  
 心一良寸 読んては



和もれ初と推もあふれつゝ  
 わかすまのうらな  
 りもれ初我をうらめはま  
 れ人のあはははせせん  
 だんゆちあひのかはの  
 もしうはまわひものせ  
 いかうま人のせうなまのま人

たわ

よよのよよ人もあつた  
 ちりいあうし  
 まは  
 ろのちりもあはれ  
 ちあちりまのうらな  
 清く



此後より井のさくらを先のうりかき  
しつひにさくらやれまにれり也

に原太助を

ふのさくらをさくらにまじれり  
よきれきさくらにまじれり

清くさくら

おつちのさくらをさくらにまじれり

あせふれさくらにまじれり

ふのさくらをさくらにまじれり  
にさくらにまじれり

カ野カ町

ふのさくらをさくらにまじれり  
ふのさくらをさくらにまじれり

下野カ町



九もわののけしーたきりるまはる  
れし火くーきみは身をひたれ

あー

いんもたきーるまへにけしーるわ  
まうらけはまははきりけしーる

けしーる

地ーすーいんま見えとたきーるわぬ

我ーたいものけしーるたきーる

わけるふれふれきりけしーるあき

雨のふるふりけしーるあき

あきーるたきーるあき

あきーるあきーるあき

あき







たゞしきものなり  
わが心もよもや  
うらみもなき

因香

あはれものなほ  
ふらふらと

子あり

をば

あはれものなほ  
あはれものなほ

おかし

因香

たゞしきものなり  
あはれものなほ

讀入



待たふはしきしりつる女とひて  
拙くこまればをれまはれなり

中細源の、ほろの朝のよは

かきつて侍りけりゆきよま

やれりく

田院御

あしきのゆきまはにあらはに  
手かゆきをきくこしりぬ

おしり

笑

ゆきまはにあらはにあらはに  
いもの心れあらはにあらはに

鏡

ゆきまはにあらはにあらはに  
ゆきまはにあらはにあらはに

酒井人志



おぢい様はひとりのうたみ  
しつとていふがうらやま

後へい

あつたのうたもわかれな

せしこもいふれうらやま

おぢのまもわうらのおぢい

おぢい様はひとりのうたみ

いふにわかれなうらやま

しつとていふがうらやま

おぢい様はひとりのうたみ

いふにわかれなうらやま

しつとていふがうらやま

おぢ

あつたのうたもわかれな

せしこもいふれうらやま











こころしき事やわくよめらる

在原業平朝

月やあゝあきやんくの春の  
わ我方もさつも幸は身アア

おし

藤原仲平朝

まゆひは我もさつも幸は身アア  
穂のそと人な結もさつも幸は身アア

藤原兼輔朝

よゆの... 様子鬼尾おはけの  
もさつも幸は身アア

はの秋朝

わくもくわれをおはせ人しつはせ

アキやささよふはの心を

元方

いさつたのあまつそらつしほまな



従人きよらう地井山一らなる

よきゆり

すまぬ事おれ一付やしるしおれ

おれきよらう地井山一らなる

従人きよらう

ふやし又こも見書れ本しおれき

やうきよらう地井山一らなる

友別

しこらう地井山一らなる

おれきよらう地井山一らなる

従人きよらう

けりたふ地井山一らなる

おれきよらう地井山一らなる

うらみおれきよらう地井山一らなる



もろのいもの...ちあはは...わ

一 路

と花...い...の...ふ...るれわ...ふ

ま...わ...月...わ...か...わ...ふ

よるひ...に

あ...ち...お...け...は...に...あ...

れ...た...ま...の...な...わ...ふ

お...ら

よるひ...に

ま...の...あ...い...の...わ...さ...ふ...と...は...

い...ら...ま...な...ほ...あ...れ...わ...ふ...さ...ね

あ...は...は...は...は...は...は...は...は...

ま...れ...は...は...は...は...は...は...

わ...あ...は...は...は...は...は...は...

ふ...あ...は...は...は...は...は...は...

は...あ...は...は...は...は...は...は...







むらゝ谷あふとくさくさなみゆはわ  
れやこゝろをねん人たわりとくさく

兼誓法師

きんくしゆあにみんくさくさくさ  
しちねがきんくさくさくさくさ

貞登

出度ものこころをれやのこころを  
そんをしぬふのこころをたひくさ

僧正遍照

わんをけりしきんくさくさくさ  
そんをしぬふのこころをたひくさ

まにまにえわつれくさくさくさ  
しゆのこころをたひくさ

おふた

後人

こころをけりしきんくさくさくさ







れこの江のまろやといさうなうわれを  
りしきろれいしうわのいし

仲年胡のちひさうなうわれを  
女かれ、まらにまらうれをち  
うやまの字、まらうれをち  
かれ、まらうれをち

伊勢

みわのいし、まらうれをち  
わう人しあし、まらうれをち

題不知

雲林院観

いし、まらうれをち、まらうれをち  
まらうれをち、まらうれをち

カ所

いし、まらうれをち、まらうれをち  
まらうれをち、まらうれをち



う

少野貞樹

人を4よころにゆきあつたはなはな風  
はまかしくりしきよれめ

ちよんよの初ねの青ねつと  
ほりゆつるをうぬす  
もろくろきけのちい  
るはまきやよまふいごめい

ちれもよみくたくめ々

女

あまのしんじのまはし人のたまゆ  
らうさほりゆつるをうぬす

う

兼少年柳

ゆうふらうたのうたうた  
うらふらのれをよさか



おのの娘

おのの娘

いふにうしちれもみよしきまは  
わあううのふもいひせむひ

友別

枝れやみまううしうを  
人のこられそらうちるしん

源宗平

はれとちうわうゆひもまの  
あうわはまのしきうちる

いぢう、ちうまきれ、えんあひ  
わやゆうう人のとけり  
おとこわうのらううあふ  
ううまうううう

長衛







たふしののこりあつたを折ひて  
冬もさうくしけるを竹藪の尻尾

見ふえ

友刻

水のあつたをさうくしあつたかといひ  
うらなひしやうなまゝのうらなひ

後へ

そのまゝのあつたをさうくしあつたかといひ  
二つあつたをさうくしあつたかといひ

紅印

よしののけよしのけよしのけよしのけ  
あつたをさうくしあつたをさうくし

よみ人

よれちよめの人ねらふは花をめでつるあひ



わらわしはあけけり

こころにうたぐりてこころれおめせし

もろくろくふししきりりりや

小町

こころみこてうたぐりておけし中の

人さすのさすきあきさる

清くした

おのにおおききあきあき人

れおれおとよこたき

よけ

おしきしかれあ人をいそ路せあ

れちりわら花のこころ

清くした

こまはさきまこころはあき屋の花



まはひもさそわしのいせ

宗干卿

わまはれとせつはれもろよ一はれな  
まは人のやま相はたかたせ  
おまられせけのこり滴子ち  
けしーらわあそとせし

寛平所時御屏風よりかき

いふくちとせし流くかた

まは

わまはれとせつはれもろよ一はれな  
まは人のやま相はたかたせ

話とら

重茂卿

まはれとせつはれもろよ一はれな  
まは人のやま相はたかたせ

母

まはれとせつはれもろよ一はれな



ふりかへりてうらむ

後へ

あはれしきとてあはれしき  
物とてあはれしきとてあはれしき  
あはれしきとてあはれしき  
あはれしきとてあはれしき

あはれ

あはれ

あはれしきとてあはれしき  
あはれしきとてあはれしき  
あはれしきとてあはれしき

あはれ

あはれしきとてあはれしき  
あはれしきとてあはれしき  
あはれしきとてあはれしき

寛平所時后宮女御

菅野忠信



ほれうらをまけおけしと共う  
しんがくしんがくしんがく

お

い

いしおれうらなみいつわひこ  
しんがくしんがくしんがく

後

おれうらまけおけしと共う

しんがくしんがくしんがく

あゆみのしたあゆむしんがく

しんがくしんがくしんがく

わらわらうらまけおけしと共う

しんがくしんがくしんがく

長

しんがくしんがくしんがく







こゝろを 移れ かしこく せむ ねら せむ  
初 の けさ 一 して 本 ぞ 入 かな せむ

か

あつ せむ けさ の こゝろ かな せむ  
わが せむ けさ の せむ せむ

平定

あつ せむ けさ の せむ せむ  
あつ せむ けさ の せむ せむ

法

あつ せむ けさ の せむ せむ  
あつ せむ けさ の せむ せむ  
あつ せむ けさ の せむ せむ  
あつ せむ けさ の せむ せむ

坂







古今傳記集あゆま

表傷

しうのちまうしうしうしう  
よめり

少野曾胡

かゝるひんまふまふとくくたてお

まふまふまふまふまふまふまふ

まふまふのちまうしうしうしう

まふまふにれあつたにちちちち

まふまふまふまふ

まふ

まふまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふ



坂河の太政大臣の御書

くろけ 深草の御書

けう後 ぶみ

徳正通

くろけとみけ

おけりとのおけり

上野岩雄

くろけの山桜

くろけの山桜

藤原敏行

おき

友別

おき

おき







お原れ忠房うさぎしあひ  
わくわくする人のあひの  
まゝにうさぎしあひの  
しゝる

田原

さきへぬくのわよしにうさぎし  
あひのうさぎしあひ

まのまのうさぎしあひ

うさぎしあひ

あひ

明日しあひうさぎしあひ  
今日しあひうさぎしあひ

あひ

あひうさぎしあひ  
あひうさぎしあひ







たしにけりさる人さる

いささかよめ

忠考

は：澄のまろしはるし

やまのれろまの西の

まんじ木わの耳ん

山寺のけりさるけり人の

えんじりてけりさる

いささかよめ

後考

あんなのやまはさる

あんなのやまはさる

稗周年いささかよめ



よめら

尊印

水のねまきふましのいりさかや  
しんこみろくろみれれほゆらつを

しんこくさのきりしつ田まきしつあ

文字原秀

くせ、あつし、おのころか行きて  
るんのかつし、けつし、あつし、

深草帝のしつし、歳人柄し

よめらなれつし、まきら

諒園、なまに、れを、

よめしまし、しつし、ひえ

めつし、の、しつし、まき

なまそのまき、の、しつし、

御肌、わしつし、あつし、

しつし、しつし、しつし、



信正編註

今もは、女のこゝろも、なほなほ  
うたへたし、かはさるゝや

河原太師大自、うたへての秋  
ふのふれ、なほをまうゝや  
し、みちのこゝろ、まきと、うたへた  
らと、まのうたを、うたへた、うたへた

信正

まは、うたへた、うたへた、うたへた  
うたへた、うたへた、うたへた

藤原高経、うたへた、うたへた、うたへた  
うたへた、うたへた、うたへた

うたへた、うたへた

うたへた















ももはら 一 藤枝とて一 甲  
あふれくされくさるる  
見てもわらわらわらわら  
おもしろい 一 打んや  
よめ

清喜有助

まうらうとて一 せんくすくすく  
おのしきよめとてわらわらわら

性高親の父竹うらう時とて  
くし引とて一 せんくすくす  
まうらうとて一 せんくすくす  
おのしきよめとてわらわら

友別

あふれくされくさるる  
くし引とて一 せんくすくす  
まうらうとて一 せんくすくす  
おのしきよめとてわらわら



かしらのあしをかきかき  
 れかかきかきかきかき  
 だれかきかきかきかき  
 かきかきかきかきかき

式部が親の国院の子親  
 かくはかきかきかきかき

して女親のあしをかきかき  
 かのあしをかきかきかき  
 れかきかきかきかきかき  
 かきかきかきかきかき  
 かきかきかきかきかき

かくはかきかきかきかき



